

最優秀賞受賞

## 「TOHOKU DX大賞 支援部門」

『宮城県コロナ患者宿泊療養施設および

ワクチン接種におけるDXの実践』

東北大学病院 メディカルITセンター中村 直毅 副部長



中村 直毅 副部長

11月26日、仙台市内のCROSS B PLUSにおいて、TOHOKU DX大賞の受賞記念フォーラムが執り行われました。TOHOKU DX大賞は、東北地区における事業者等のDXの推進に寄与することを目的として、東北経済産業局より本年度から創設されたもので、東北大学病院が「宮城県コロナ患者宿泊療養施設およびワクチン接種におけるDXの実践」が支援部門最優秀賞を受賞しました。



受賞フォーラムでのMMWIN紹介の様子

受賞案件紹介では、東北大学病院メディカルITセンター中村直毅副部長により、コロナ患者宿泊療養施設と宮城県庁医療調整本部及び東北大学病院間をMMWINネットワークで結び、レントゲン検査、血液検査、心電図検査等の結果をオンラインでの情報共有を可能としたこと、1カ月半という開発期間で早急に体制が整備できたこと、ネットワークの整備により、重症患者を見落とすことなくフォローする医療体制を確立できたこと等、MMWINネットワークについてもご紹介いただきました。



## お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです。

### 《 MMWINホームページについて 》



トップページ上部

10月よりホームページを一部リニューアルしております。新しくなったMMWINホームページぜひ、ご覧ください。



参加施設活用紹介



発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp



当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2021 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



# MMWIN 通信

みんなのみやぎネット NEWS

2021  
12.24  
vol. 67

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

## 病院移転における 電子カルテシステム停止期間中の 『MMWIN保存データの活用』

JCHO仙台病院様は、2021年5月1日に仙台市泉区に移転され、5月6日より外来診療を開始されました。5月1日から5日間のシステム停止期間中の対応について、診療情報提供の対応責任者であり、中心的役割を果たされた診療情報管理室診療情報管理専門職 宮口美奈子様にお話を伺いました。



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
JCHO仙台病院

### 病院移転に向けて

診療情報管理士は、診療情報の全てを扱う専門職になります。電子カルテ、過去の紙カルテ、また必要に応じて様々な診療情報をデータ化し、保存・抽出・加工などを行う管理全般をしております。移転期間は紙カルテで対応することになっておりましたので、対象となる患者さんの絞り込みをし、医師には事前に指示を出してもらうことにしました。

また突発的な指示などに対応できるように、入院患者さん全員分（約200名分）と急患用の紙カルテを準備しました。紙カルテの準備や運用方法については、看護部、医事課と他メディカルスタッフと打ち合わせをして決めていきました。



宮口 美奈子 診療情報管理士

### 病院移転の課題

移転前の病院で使用している電子カルテシステムを移転先でも引き続き利用することとなりました。新規システムの導入であれば、事前にシステムを構築するなどの準備が可能ですが、それができないため、移転完了までは電子カルテシステムが停止となります。システム停止により、過去の診療情報録の参照ができず、移転先との距離もある中、病院としては大きな不安を抱えたまま移転に臨まなければならない状況でした。

### MMWIN活用のきっかけ

移転前近の4月の会議で庵谷副院長からMMWINが使えないかのご意見が出されました。MMWIN提供システムは、「診療情報のバックアップ」と「診療情報の参照・共有」の二つの提供機能がありますので、過去の既往歴、薬や検査結果などのデータが見られたらいいという先生方からの要望にも応えることができます。こういった場面でもMMWINの活用ができると気付かれ、病院で抱えていた不安を払拭してくれと感じました。早速MMWIN営業担当の方に相談し、準備を進めることとなりました。

### 移転の事前準備

MMWINが提供する「タブレットサービス」を利用することとしました。MMWIN専用iPadを5台準備し、旧病院に2台、新病院に3台配置。iPadを通してバックアップ情報の参照ができるような体制を準備しました。

また、医師に患者データを見てもらいながらMMWINの操作説明を行いました。先生方からは、操作方法の動画がほしいという要望が出ましたので、動画と紙のマニュアルを準備し、iPadと一緒に医局の目立つところに設置しました。移転期間中は休日シフトにしておりましたので、日直にあたる医師、他にも総合診療科や腎センターの医師にも利用してもらいました。iPadは携帯性に優れていることから、医局内での利用とし、必ず医局に戻すようにお願いしました。基本方針として、他院の患者さんの受け入れはせず、自院の患者さんのバックアップ情報の参照として役立ちました。

### 振り返り

移転期間中は、主治医ではない日直の医師が診察するので、患者さんの前後の流れを把握するのに紹介状が見たいという声があり、紹介状、画像、手術所見についてもバックアップ情報としての必要性を感じました。災害時のMMWINバックアップ機能をイメージしていましたが病院移転の際にも同様の活用ができることを実感しています。他の病院にも参考になると思います。

# 医科 歯科 連携 MMWIN 活用 紹介

## 【大崎圏】加美町

### みちのく歯科診療所



院長 川村 洋 先生  
(大崎歯科医師会 理事)



川村 洋 院長

#### ～全身状態の把握～

中核病院と連携しているケースにおいて、特に画像や検査結果のデータを参照しています。化学療法を行なっている場合、ステージによって抗がん剤の効き目が変わり、それに応じて口内の粘膜に症状が出ることがあります。その影響により食欲不振から栄養障害に繋がる場合があるので、全身状態を把握し、準備と対策を立てるためにMMWINを活用しています。がんの進行は早く、主治医に確認しても返事が来るまで時間がかかり、その間にさらに状況が変わることもあります。迅速に多くの情報を確認できるのがMMWINのメリットであると思います。

また、神経難病の患者さんの訪問診療も増えています。進行性のため、食事が出来なくなったり、誤嚥のリスクも高くなったりします。主治医が変わることも多いのですが、その中で患者さんが今どのステージにいるのかを、MMWINを参照して把握することができます。

骨修飾薬使用のケースでは顎骨壊死との関連もあるので投薬状況の把握が重要です。注射で投薬された分の情報はお薬手帳に記載されませんが、MMWINを参照すれば、処方薬も注射の情報も一度に見ることができるので助かります。

#### ～主病を治すための、支持療法～

大崎市民病院と歯科の間で一番大きな連携として、術前口腔機能スクリーニング（周術期の口腔機能管理として、全身麻酔症例の患者全てを歯科に通すこと）があります。主病を治すため、感染予防、栄養確保目的の支持療法として口の中の環境整備はとても大事です。医科と歯科の連携が取り上げられるようになり、歯科も医科の中に取り込まれるようになってきましたので、若い先生にもっと他科の先生とやり取りをして欲しいと思います。歯科はまだ閉鎖的な医療環境ですが、それを広げ、融和させられるのがMMWINだと思います。

#### ～カンファレンスでの活用事例～

在宅診療、特に看取りは、訪問医と訪問看護の負担が大きくなります。そこで最近、訪問診療の一角を歯科が担うという流れがあります。医療で重要なのは情報です。MMWINをうまく活用できれば、必要な情報を素早く集めることができます。

先日、訪問診療を行なっている患者さんで、緊急性の高いケースがありました。複数の科で診察を受ける中、病状はどんどん進行して食事や呼吸も難しくなっていき、患者さんが不安を感じていました。患者さんの不安を取り除くためには、こちらもしっかりと情報を把握した上で、きちんとした説明をする必要がありますが、その時は前の科に情報を問い合わせる時間がありませんでした。そこで、患者さんにMMWINについて説明し、加入して頂きました。MMWINに事情を話すとIDを即時発行してもらえたので、カンファレンスでは関係者間でしっかり情報共有できましたし、患者さんにも説明できて助かりました。

#### ～医療のスリム化を～

MMWINは震災を機に出来上がったシステムで、当初の目的である「医療情報の保存」の他に「情報共有」も出来るようになり、それにより医療のスリム化を図れるのではないかと考えています。同じような検査や大それた機器で医療は肥大化し、医療費も膨張しています。正確な検査をするのに高度な精密機器は必要ですが、効率的に「情報共有」をしていくことが大切だと思います。そういった現在の医療をスリム化していくのに、MMWINが一役買ってってくれることを期待しています。

## 薬局セミナー開催報告と



## 今後のMMWINネットワーク活用

今年8月に施行された認定薬局制度に関連した基幹病院と保険薬局との文書連携等をテーマに第1回「調剤薬局のためのMMWIN活用Web講座」と題したセミナーを10月に開催しました。当日は70名を超える視聴参加をいただき、アンケートにて多くの要望、質問、ご意見を頂き今後の活動に大いに参考になりました。なかでも『トレーニングレポートにMMWINネットワーク活用を必要と思われますか』に対して「ぜひ活用したい」42.9%「機会があれば活用したい」42.9%と計85%以上の回答をいただきました。(n=21)

宮城県薬剤師会審議会長より地域連携薬局が今後、地域の薬局のフラッグシップの役割を持ち、医療・介護福祉・行政との連携が日常業務になり、また通常の薬局のかかりつけ機能についても患者さんの生活、全体像を最適化しフォローをするうえでも地域の様々な職種の方との医療情報の連携・共有がより必要になる。そこにMMWINネットワークが重要なツールになりうるとのコメントもいただきました。

認定薬局の役割は地域連携薬局と専門医療機関連携薬局があり、地域連携薬局は外来受診時だけでなく、在宅医療への対応、入退院時を含めた、他の医療提供施設との服薬情報の一元化・継続的な情報連携に対応できる薬局、他医療機関の医療従事者との連携をしています。他の薬局に対する医薬品の提供、医薬品に対する情報発信、研修等の実施で他の薬局の業務支援体制構築も期待されております。

#### ～シームレスな医療提供～

セミナーにて講演していただいた倉島副管理薬剤師の勤務されているひかり薬局大学病院前調剤センター様はすでに専門医療機関連携薬局の認定を取得されております。現在テスト段階ではありますが東北大学病院様とMMWINメールにての連携を実施されており倉島先生からは「個人情報の観点より病院からのメールのみに返信を行うので安全、FAXでの誤送信の心配がない」「データの早い共有化、メールをPDF化しての送付にて記載内容が読みやすく間違いが起りにくい」と、いわゆるシームレスな医療提供が行えるとのことと今後、情報セキュリティマネジメントを鑑み、トレーニングレポートの提出もFAXからMMWINへのデータアップロードへの切り替え方向を予定されています。



ひかり薬局大学病院前調剤センター  
倉島 信彦 副管理薬剤師

#### ～薬業連携ツール～

また、今回のセミナーで講演いただいた東北大学病院 薬剤部 松浦副薬剤部長よりご提案があり、MMWIN文書連携システムを活用した『薬業連携ツール』（トレーニングレポート作成システム）の構築を進めております。今後、実用化に向けて最終チェックを行い、各施設様へのご案内をしていく予定です。



東北大学病院薬剤部  
松浦 正樹 副薬剤部長

最後に松浦副薬剤部長よりのコメントをご紹介します。

『令和2年度の診療報酬改定では、質の高い外来がん化学療法の評価として、地域の薬局薬剤師との連携体制の評価が新設されました。更に認定薬局制度が令和3年8月1日より施行され、保険薬局から病院への情報提供の実施が認定要件の一つとなっております。そのような社会的背景もあり、現在、東北大学病院では月300件程度のトレーニングレポートをFAXで受付、電子カルテにアップしております。今回、MMWINの機能を利用し電子的な文書連携の仕組みを構築し提供することといたしました。今後、これらのツールを活用して、更なるMMWINの利活用が推進されることを期待しております。』